

岩屋緑地に親しむ会 会報

令和4(2022)年10月1日発行 第87号

編集・発行

岩屋緑地に親しむ会

広報・連絡委員会

「地区市民館講座」で西川会長が講師

令和4年9月17日(土)午後1時30分から二川地区市民館で「地域力向上講座」が開かれ「岩屋緑地を散策して、自然と保全の取り組みを学ぼう」と題し「岩屋緑地に親しむ会」の西川収示会長が講演された。



会場は3階集會室、司会は宮崎館長で受講生は市の広報を見て応募した12名。会場正面に大型高精細のモニターが据えられ、パワーポイントを使って講演された。前半は「岩屋緑地とは」。配られた資料はA4、5枚10ページ、一部カラーの資料。岩屋緑地の紹介、岩屋緑地の施設、「岩屋緑地に親しむ会」について、その活動内容。森づくり、学校支援、市民参加イベント、地域事業への参加などの話があった。後半は「岩屋緑地のきのこ」について。こちらはA4、5枚5ページのオールカラーの資料。きのこのパーツの呼び名、48種のきのこが取り上げられた。きのこの名前の赤字は毒きのこ、青字は食べる価値なし、黒字は食べられるきのこ。岩屋での毒きのこによる死亡例や三河の名のついたきのこの紹介などをされた。最後に岩屋緑地の案内図、「岩屋緑地に親しむ会」の会報、入会案内を説明された。



講座の2回目は9月24日(土)に行われた。前日は台風15号の影響で激しい雨が降り、豊橋でも大雨洪水警報が発令され、線状降水帯が初めて確認された。夜には携帯へ大きな音量で土砂災害警戒情報が流れてびっくりさせられた。翌日は台風一過の秋晴れとなったが、市民

館から受講生に電話があり今日の講座は予定通りに行うが岩屋緑地は水浸しなので長靴を履いてくるようにと連絡が入った。午後1時



30分、休憩所にスタッフ2名、講師の会長と浦山和幸会員の2名、受講生8名に子供など3名が集まる。受付で出欠をとり体温測定、手指の消毒をして防虫スプレーで蚊よけを塗る。挨拶と簡単なミーティングをしてから緑地へと出発する。管理



道路から坂を上り新さくら広場へ。会員の手で木を伐り広場を作ってサクラを植樹したこと。ヒノキ林が虫害に会い枯れた木を伐った跡に

コナラとヤマザクラを植えたこと。岩屋観音ではチャートの崖を眺める。階段下からランニング道路を時計回りに進む。足元は山から浸み出した水でびしゃびしゃ。コナラがナラ枯れで何本も枯れているのを見る。きのこを探すがこの水では無理、でもシロオニタケモ

ドキヤクロタマゴテングタケなど数種を見付けられたのはラッキーだった。「四季ときめきの森」では助成金を受け会員の手で散策路を作ったことを説明。「じゃぶじゃぶ池」上のコナラ植樹地の中を



を説明。「じゃぶじゃぶ池」上のコナラ植樹地の中を休憩所に戻る。足元の悪い中1時間半、何とか講座の趣旨は理解して貰えたようだった。【写真左上：講演する西川会長、写真左中：配られた資料、写真左下：モニターに映された岩屋緑地、写真右上：ミーティング、写真右中：森の中で植生やきのこの説明、写真右下：見つけたシロオニタケモドキの説明をする】